

平成25年12月7日(土)午後1時30分

たげきたばたけし

多気北畠氏遺跡第36次(北畠氏館跡第14次) 発掘調査現地説明会資料

事業名：多気北畠氏遺跡発掘調査 **調査原因**：学術調査
調査主体：津市教育委員会 **調査地**：津市美杉町上多気字馬場1160番1
調査面積：158㎡ **調査期間**：平成25年10月21日～12月28日(予定)
調査指導：多気北畠氏遺跡調査指導委員会
三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター

1. はじめに

津市教育委員会では、多気北畠氏遺跡の学術調査を継続して実施しています。北畠氏館跡では、昭和57年度に第1次調査、平成4年度に第2次調査が行われ、平成8年度からは継続して学術調査を実施しています。調査は、旧美杉村や三重県の行った調査を含めて通算で36回目にあたることから第36次調査、また北畠氏館跡としては第14次調査になります。

今回の調査地は県道の東側部分にあたり、平成23年度に国史跡多気北畠氏城館跡に追加指定された場所にあたります。

これまでの調査の結果、北畠氏館跡は3段構造となっていると考えられており、北畠神社の境内にあたる上段は当主の政治・生活の場であり、石垣や建物跡が確認され庭園も現存します。これに対して、一段低い県道沿いの中段はこれまで宅地であったため、本格的な調査が行われませんでした。今回の調査は北畠氏館跡中段部分の構造解明が目的です。

2. 基本層位

調査地は、平成24年まで3軒の住宅・店舗がありました。調査の結果、建物が建てられていた盛土の下から、更に古い時期の建物の基礎が発見され、これは大正時代より以前のものと考えられます。この時期の建物も盛土の上に建てられており、2回にわたる盛土は1.5m以上の厚さがありました。

これらの盛土を除去すると、厚さ0.15mほどの旧耕作土があり、その下で

遺構や多量の石材を確認することができました。後世の水田などによる耕作により、削平を受けているものの、この面が北畠氏館跡の中段部分にあたるものと考えられます。

3. 発見された主な遺構

南側の方形の調査区では、多数の石材が2～3mほどの幅で落ち込んだ状態でまとまって見つかりました。石材の出土する高さは、西側から東側に向かって低くなり、石材の大きさも小さくなります。最も西側の石材の一部は並べられているものと考えられますが、その他の石材は不規則な状況でした。石材は丸みを持ったものと角ばった石が混ざって出土しており、いずれもこのあたりの川や山で採取できるものです。

今回の調査では、この石材群を含む東側に盛土を行い整地していることが確認されています。また、調査区全体での遺構密度は低く、石材群のほかは浅い溝が1条と、小穴が1基確認されている程度です。

4. 発見された主な遺物

遺物は整理箱に15箱ほど出土しました。そのうちの約半分は、2回にわたる盛土に含まれていたものです。また、その他の遺物のほとんどが、石材群とともに出土しました。土器の種類はそのほとんどが土師器と呼ばれる素焼きの皿で、これまでの北畠氏館跡での調査成果と共通する傾向がみられます。時期は15世紀後半から16世紀前半（北畠氏館跡の前期から後期の早い段階）にかけてのものが多く、地元産のいわゆる南伊勢系土師器のほかに、京都系の土師器もみられます。石材群からは、これらの土師器皿とともに、炭や少量の鉄釘も出土しました。土師器皿以外の遺物は少なく、わずかに中国産とみられる天目茶碗や瀬戸美濃産の陶器、渥美産の山茶碗などがみられる程度です。

5. まとめ

今回の調査は、北畠氏館跡の中段と考えられる部分において実施された初めての計画調査です。調査の結果、北畠氏館跡の中段部分の遺構面の高さが明らかとなり、過去の調査成果とあわせて、館跡の上段や下段部分との比較が可能

になりました。

また、石材群が区画を行うために並べられていたものであるとすれば、その方位は北に向かって東に10～12度ほどの傾きになります。

これは第11次・12次（館跡第4次・5次）調査で検出された石垣（S A25・S A28）の方位（東へ14度）に近く、ほぼ方位が揃うことから、北畠氏の館跡が一定の規格をもって造られていたことを示唆しています。

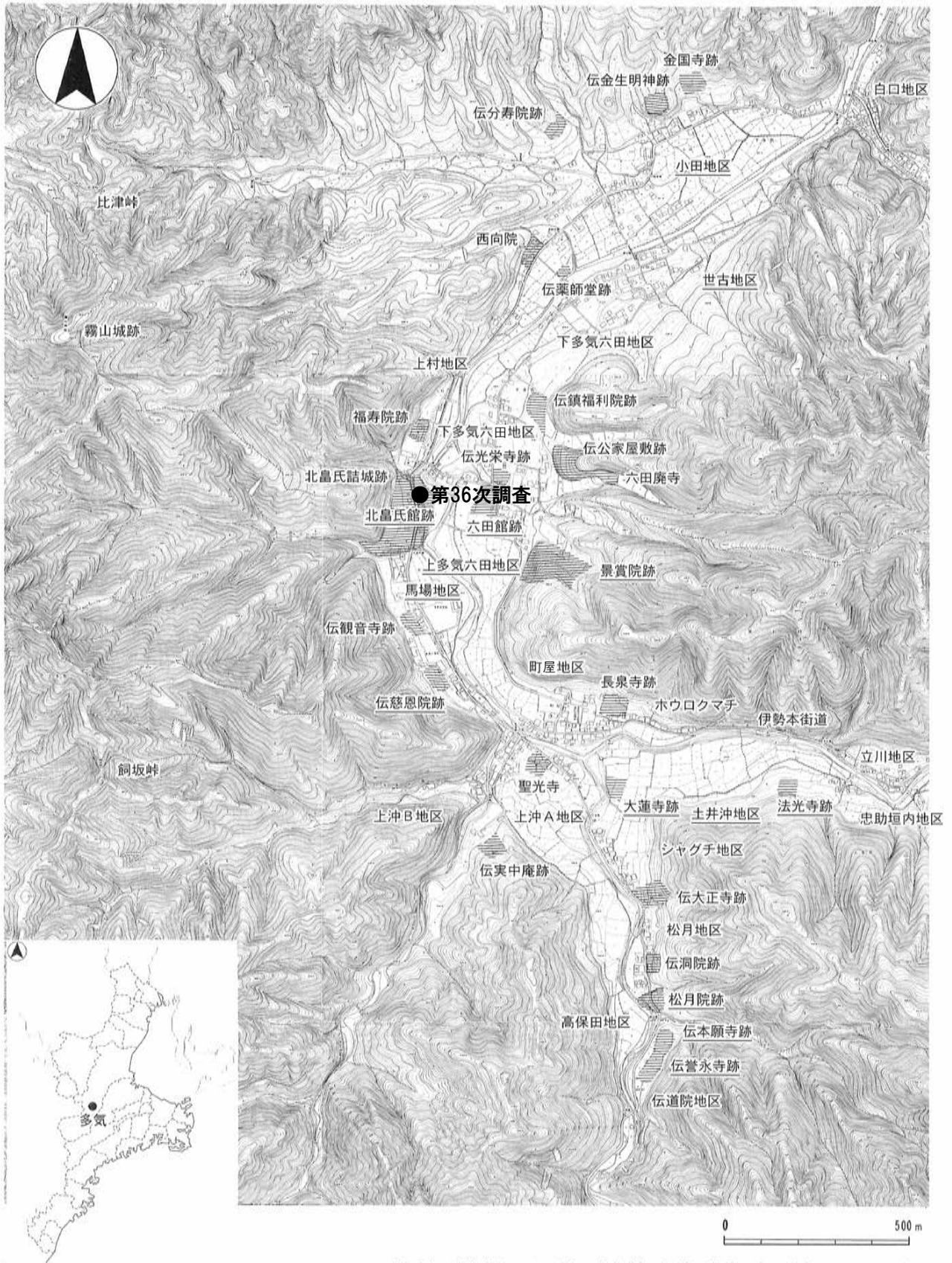
また、石材の出土状況は、石列や石垣を壊したような状態であり、それを片付けた後に東側部分を埋め立て、平坦な部分を拡張していることが窺われます。

今回の調査は面積が限られていることから、中段全体の状況を明らかにすることはできませんが、これまでの調査成果とあわせると、北畠氏の館跡の変遷を窺うことができました。今後はこうした調査の積み重ねにより、北畠氏館跡の構造について更なる検討を進める必要があります。

【資料】

- ① 第36次発掘調査区位置図（1：15，000）
- ② 第36次発掘調査区位置図（1：1，500）
- ③ 第36次遺構略測図（1：150）
- ④ 北畠氏館跡断面図
- ⑤ 北畠氏館跡前期遺構図（1：1，000）
- ⑥ 北畠氏館跡後期遺構図（1：1，000）
- ⑦ 北畠氏館跡構造模式図・北畠氏館跡第4・5次調査出土入口遺構
- ⑧ 全国各地の居館（1：5，000 『北畠氏館跡7』所収）
- ⑨・⑩ 調査区写真（調査区航空写真、全景、石列・石材の出土状況）
- ⑪ 北畠氏・多気関連年表

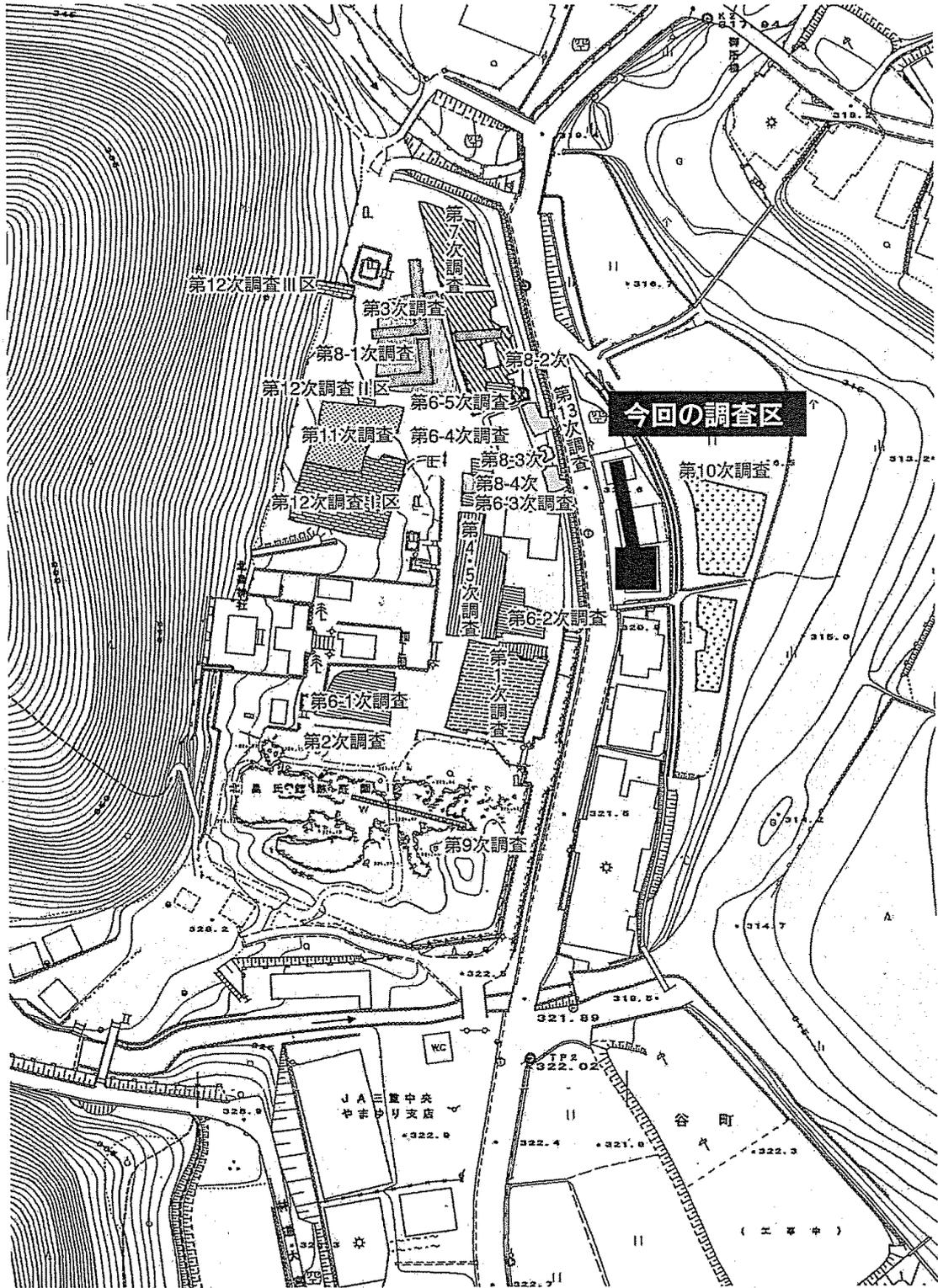
資料①



(注1) 寺院名については、中世期の史料に記載のある名称はそのまま使用し、近世紀の史料・絵図等にのみみられるものは「伝」を付した。
 (注2) 発掘調査（本調査）が実施されている場所は名称にアンダーラインを付した。

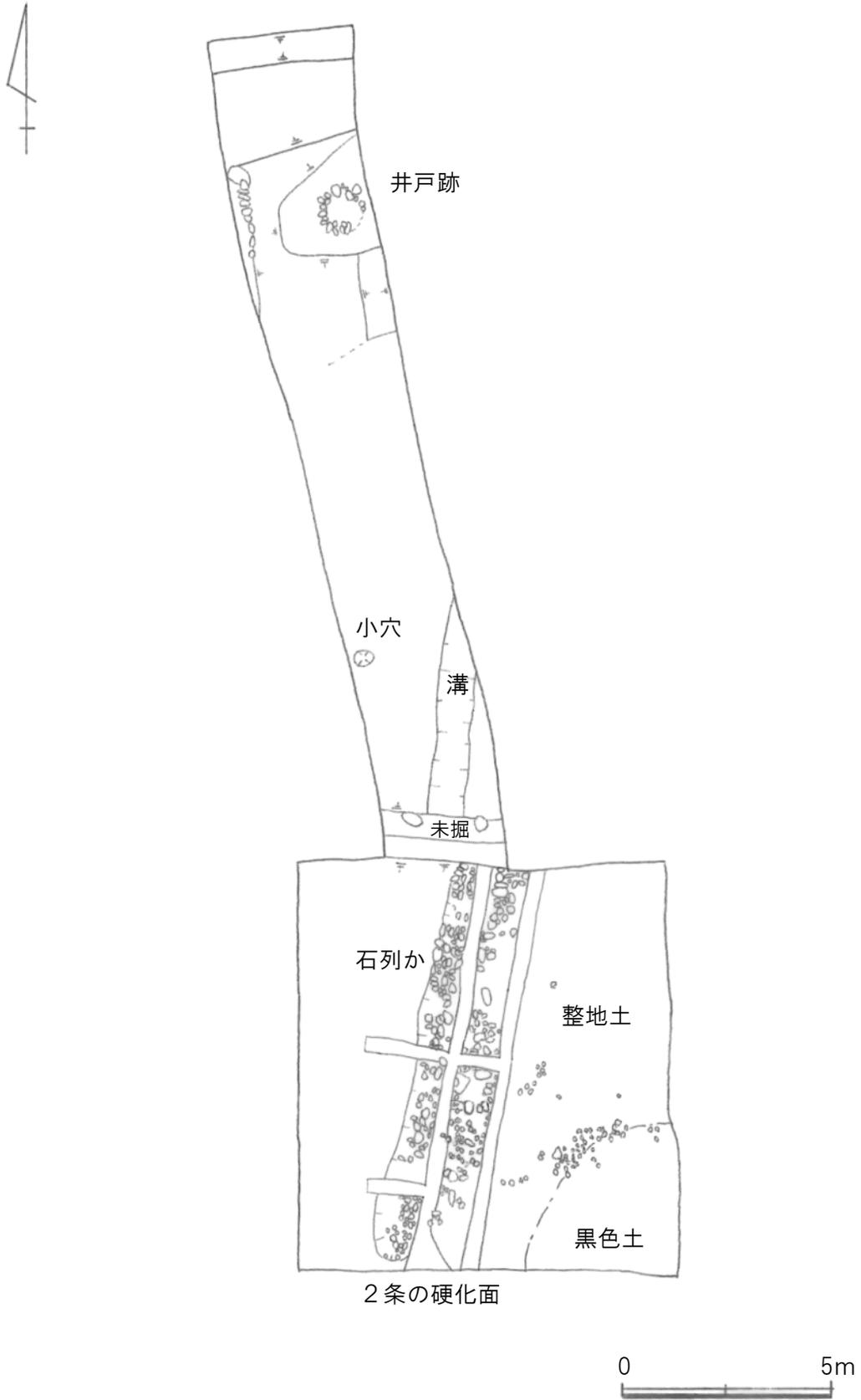
多気北畠氏遺跡第36次発掘調査区位置図(1:15,000)

資料②



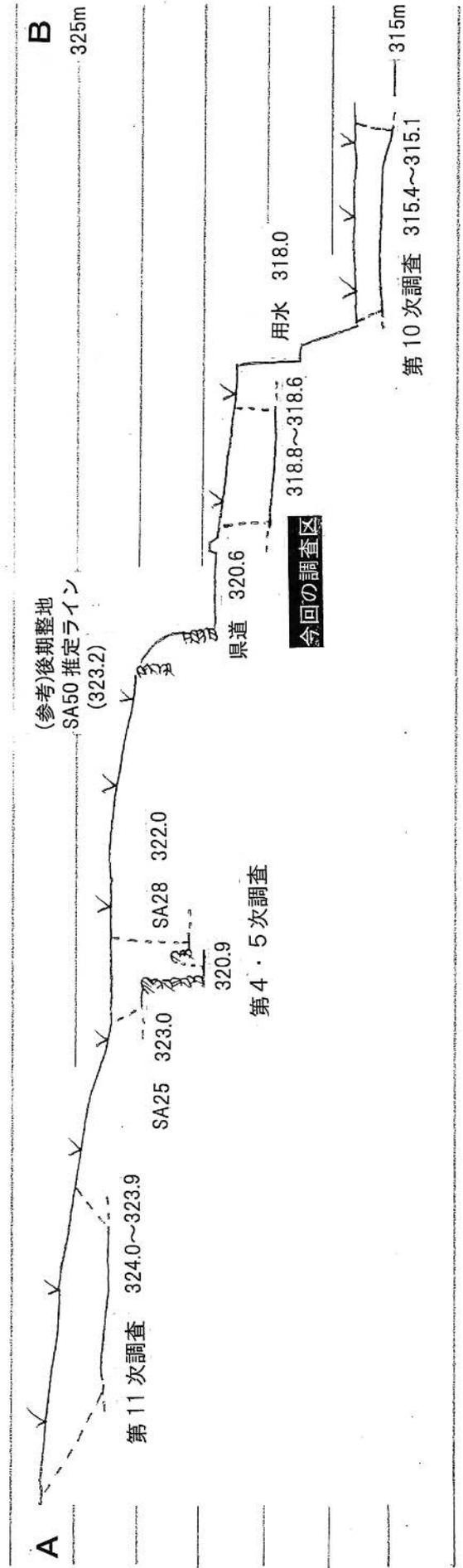
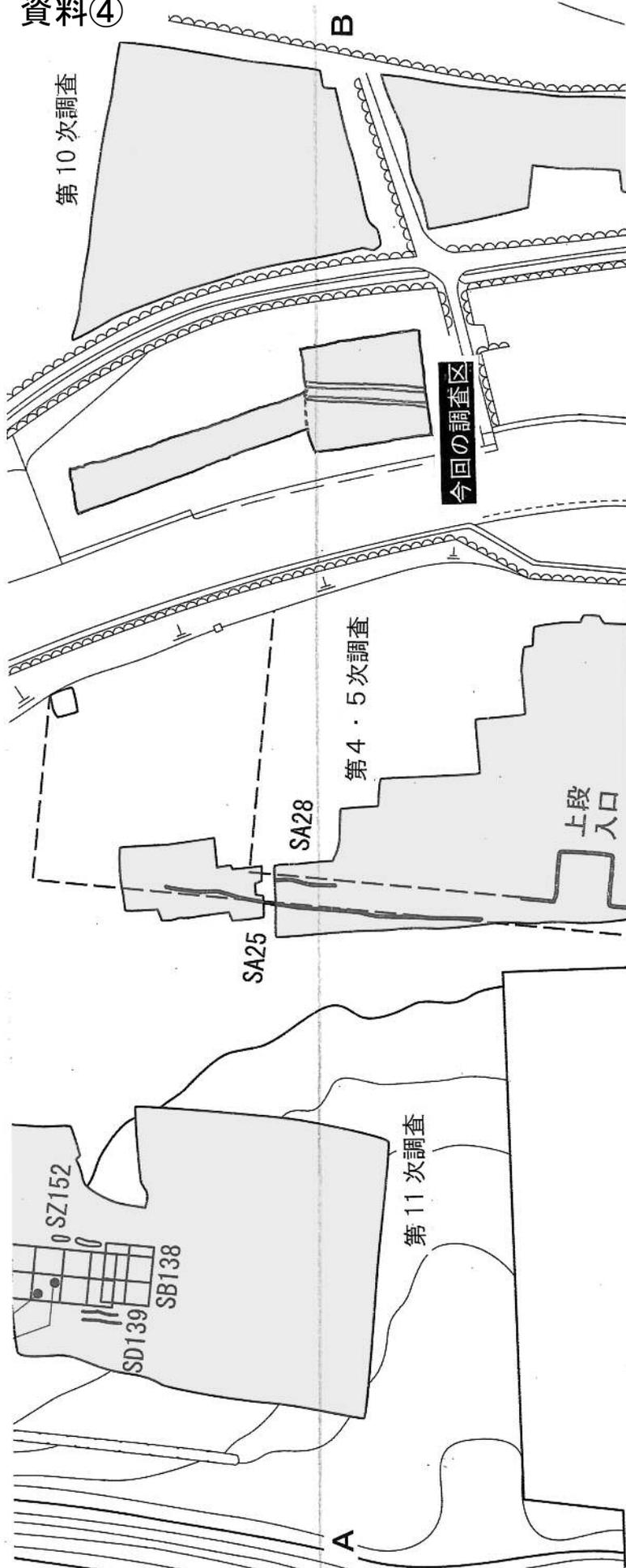
多気北畠氏遺跡第36次発掘調査区位置図 (1:1,500)

資料③



多気北畠氏遺跡第36次（北畠氏館跡第14次）遺構略測図（縮尺1：150）

資料④



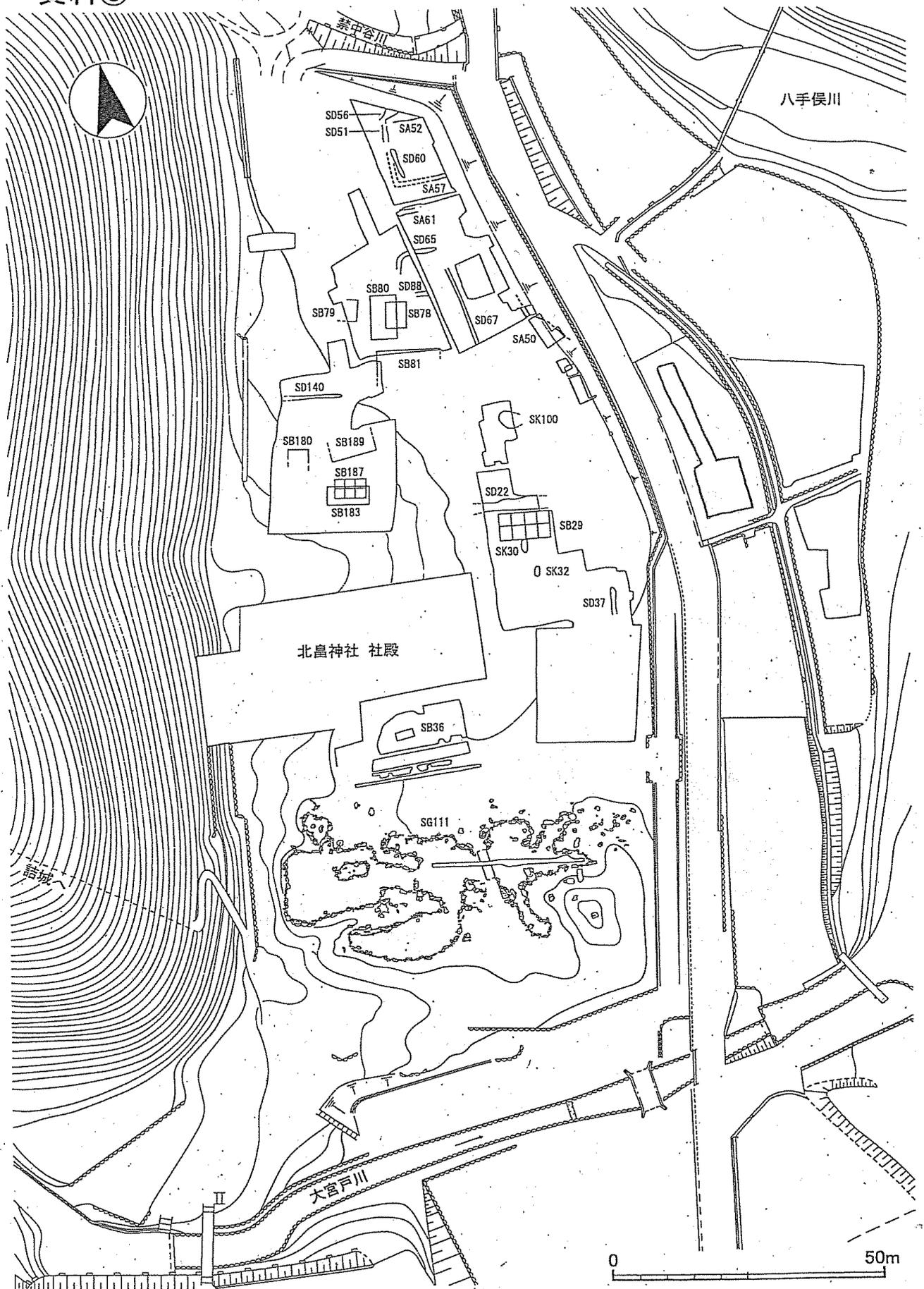
北畠氏遺跡断面図 (縮尺 1 : 500、断面図の高さは 1:200 に拡大)

資料⑤



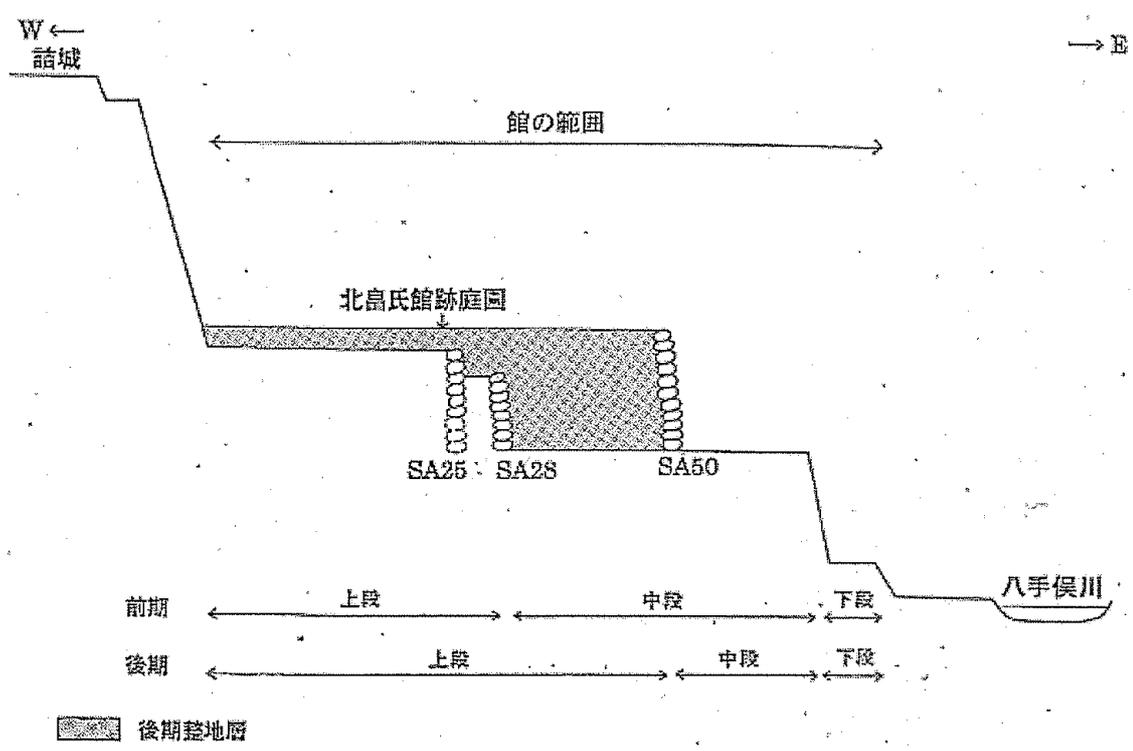
北畠氏館跡前期遺構図 (縮尺 1:1,000)

資料⑥

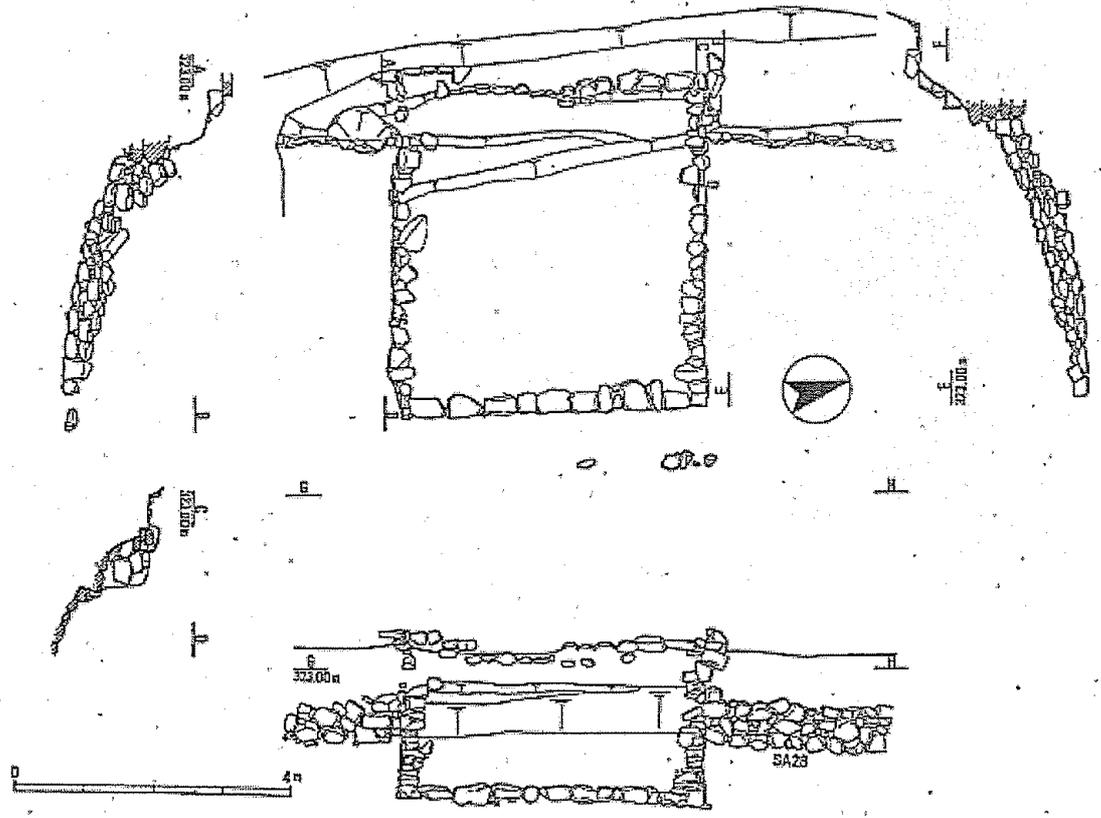


北畠氏館跡後期遺構図 (縮尺 1:1,000)

資料⑦

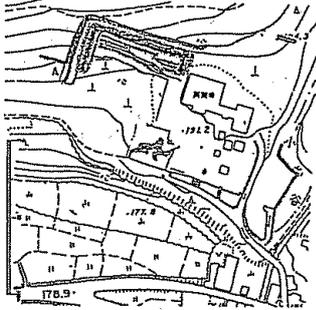


北島氏館跡構造模式図

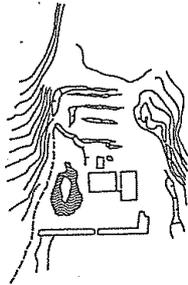


北島氏館跡第11・12次調査出土 入口遺構

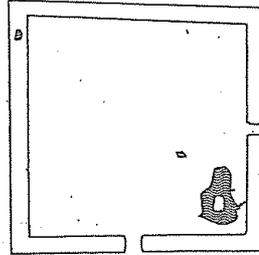
資料⑧



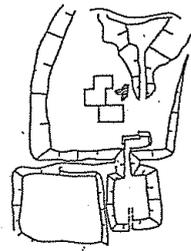
岩神館跡 (滋賀県)
(朽木氏)



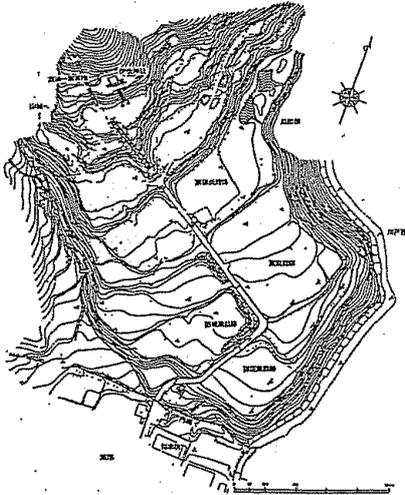
万徳院跡 (広島県)
(吉川氏)



大内氏館跡 (山口県)



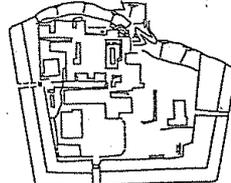
隅部氏館跡 (熊本県)



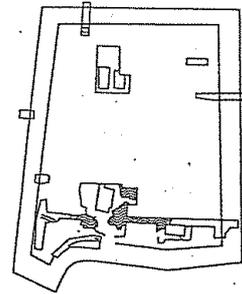
上平寺館跡 (滋賀県) (京極氏)



高梨氏館跡 (長野県)



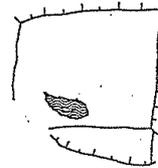
朝倉館跡 (福井県)



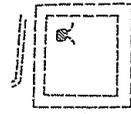
勝瑞館跡 (徳島県)
(三好氏)



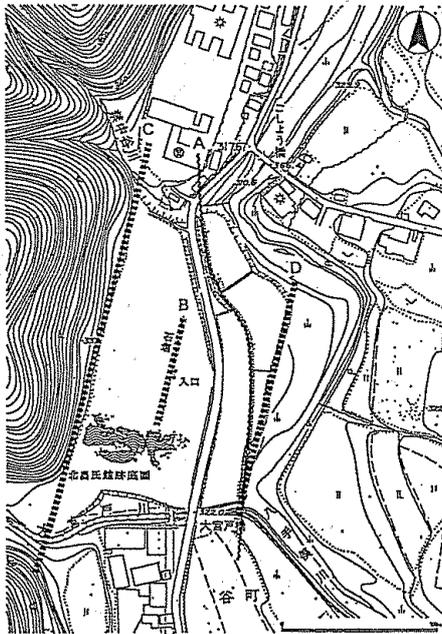
江馬氏館跡 (岐阜県)



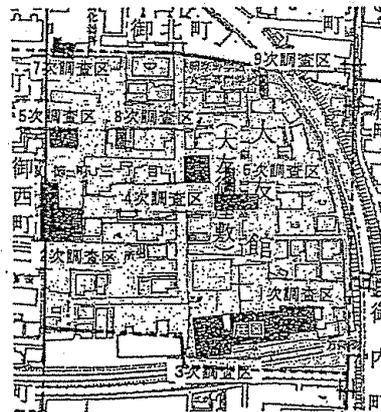
東氏館跡 (岐阜県)



豊田氏館跡 (奈良県)

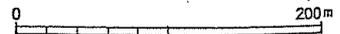


北畠氏館跡



大友氏館跡 (大分県)

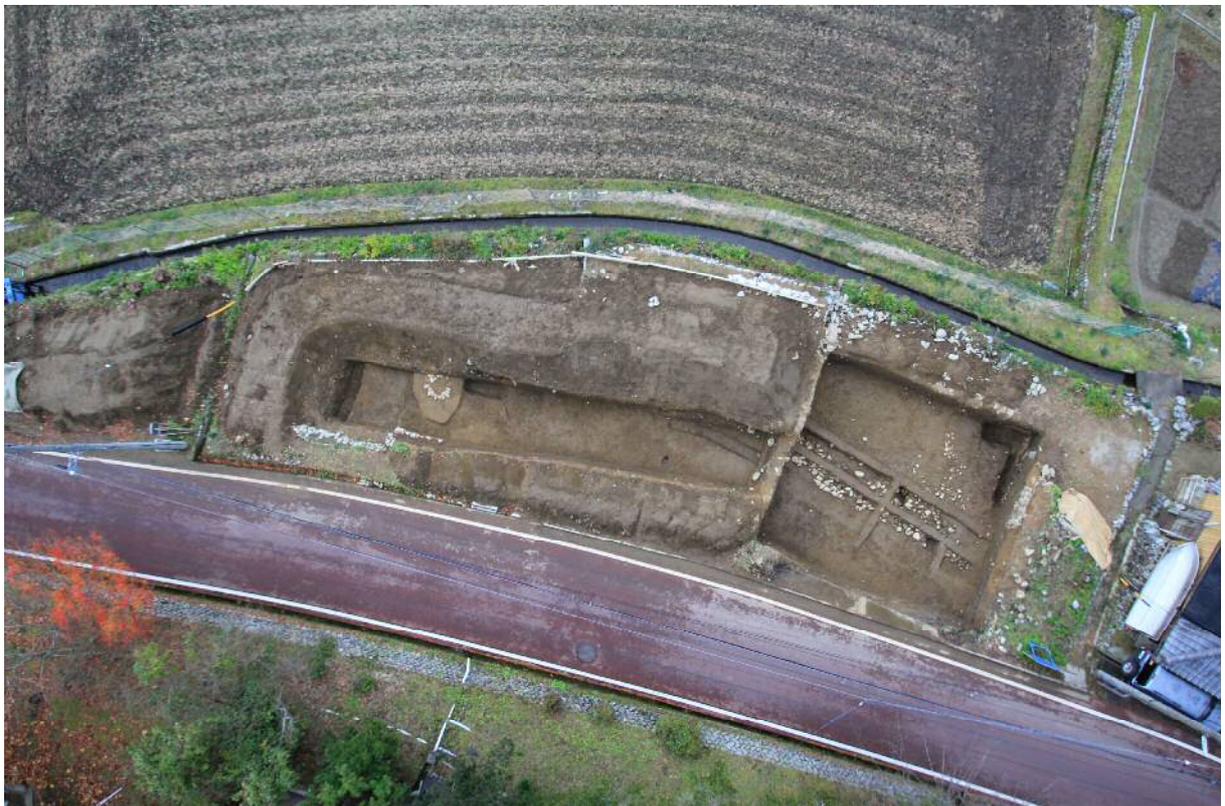
※万徳院は寺院跡



資料⑨



調査区航空写真（東から 右の山は詰城跡）



調査区航空写真（垂直写真 上が東）

資料⑩



調査区全景（南から）



石列・石材の出土状況（南から）

資料⑪

北畠氏・多気関連年表

西暦	元号	当主	出来事	発掘の成果
1336	延元元 建武3		北畠親房、伊勢入国。田丸城を拠点とする。	
1342	康永元	頭能	8月、田丸城落城。（『波多野貞夫氏所蔵文書』）	
1392	明德3		南北朝合一	
1403	応永10	頭泰	北畠関連としての「多気」の史料上の初見。 （『醍醐枝葉抄』）	
1415	応永22	満雅	北畠満雅、幕府に対して挙兵。幕府軍の勝利に終わり、多気まで攻め込まれるが、満雅は幕府と和議。 （『満濟准后日記』）	
1428	正長元		後龜山天皇の孫小倉宮、伊勢国に出奔。「国司在所多気」の奥、「興津」に入る。（『満濟准后日記』） 満雅再び挙兵。（『満濟准后日記』） 12月に戦死する。（『師郷記』等）	
1430	永享2	頭雅	満雅の弟頭雅、満濟、赤松満祐の仲介により將軍足利義教と対面。（『満濟准后日記』）	
		教具	教具、叔父頭雅より家督を継ぐ。（『満濟准后日記』『建内記』）	
1441	嘉吉元		赤松満祐、將軍足利義教を殺害（嘉吉の乱）。赤松氏滅亡、満祐の子教康は伊勢国司を頼るが、これを匿わず、誅殺する。 （『建内記』）	↑ 北畠氏館跡前期 石垣SA25・28、入口跡を造営
1453	享徳2		この頃、本格的な神三郡支配に乗り出す。（『氏経卿引付』）	↓
1467	応仁元		応仁の乱。將軍足利義政の弟義視、応仁の乱時に伊勢に下向、小倭の常光寺で国司教具と対面。（『応仁記』）	
1471	文明3	政勝	北畠政勝、父教具の死去により家督を継ぐ。（『内宮引付』『大乘院寺社雑事記』など）	
1480	文明12		北伊勢で長野氏と合戦するが、大敗。 （『大乘院寺社雑事記』『氏経神事記』）	
1497	明応6	具方	木造政宗が北畠帥茂（具方の異母弟）と結び反乱。（『大乘院寺社雑事記』『大乘院日記目録』）	
1499	明応8		北畠氏の多気館ことごとく焼失する。 （『大乘院寺社雑事記』）	北畠氏館跡後期整地この後か 六田館跡初期の整地
1500	明応9		多気館再建。（『大乘院寺社雑事記』）	北畠氏館跡後期
1517	永正14	晴具	父具方の死により国司家を継ぐ。 北畠氏館跡庭園は、この頃造られたと伝えられる。	↓
1537	天文6	具教	この頃具教家督を継ぐ。この頃領域を拡大するが、永禄に入り、領域内志摩、宇陀での軍事的緊張高まる。 （『澤氏古文書』など）	↑ 上多気六田地区4・5次
1562	永禄5	具房	この頃北畠具房家督を継ぐ。（『浄眼寺文書』）	↓
1569	永禄12	（信具雄豊）	織田信長南伊勢に侵攻、天花寺城・阿坂城・大河内城にて北畠具教と戦う。信長の次男茶筌丸（北畠具豊、信雄）を北畠氏の養子とし、和睦。（『信長公記』『多聞院日記』）	
1576	天正4		具教、信長により殺害され、北畠氏滅亡。多気も滅亡か。 （『公卿補任』『勢州軍記』など）	